

history & artwork

- 軌跡と作品 -

- 1932年 11月16日、弘前市百石町で生まれる
- 1951年 弘前中央高校を卒業
- 1955年 女子美術大学芸術学部洋画科を卒業
女流画家協会展 T夫人賞を受賞
- 1965年 新制作展新作家賞を受賞
(同1967年、1968年)
- 1986年 紺綬褒章を受章(同2011年)
- 1993年 「安井賞展」の審査員を務める
- 1994年 青森県褒賞文化功労者となる
- 1996年 パリで個展を開催(同2000年、2003年)
- 2001年 青森県文化賞を受賞
- 2003年 損保ジャパン東郷青児美術館大賞を受賞
- 2004年 日本美術家連盟常任理事に就任(～2007年)
損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞記念
「佐野ぬい展—遠い様式・青の構図」を開催
- 2007年 女子美術大学学長に就任(～2011年)
- 2012年 瑞宝中綬章を受章
- 2014年 ステンドグラス『青の時間』を市民会館へ設置
- 2015年 弘前市名誉市民となる
- 2021年 弘前れんが倉庫美術館「りんご前線—Hiroasaki Encounters」に出展
- 2023年 90歳で永眠 正五位叙位



▲【1990年代】アトリエで

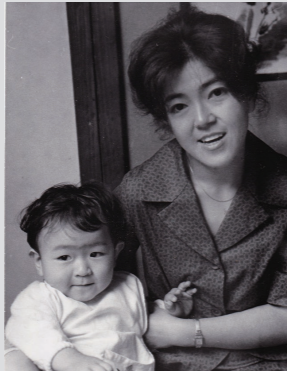
①



②



③



- ①【1930年代】七五三
- ②【1950年代】大学の友人と
斜陽館へ
- ③【1960年代】長男と
- ④【1970年代】アトリエで
- ⑤【1996年】パリ個展取材
- ⑥【1996年】パリのラグノオで

④



⑤



⑥



①



②



③



① 逃げる構図

(1981年/弘前中央高校蔵/53.0cm×45.5cm)
佐野さんの抽象の色と構図が確立された時期の代表作。

② アフタヌーン・レッドの余白

(1995年/女子美術大学蔵/185.0cm×150.0cm)
不定形で鮮烈な「オペラ色」を印象的に使い始めた1990年代の代表作。佐野さんはこの赤を「オペラ色」と呼び、題名にもたびたび引用しましたが、色見本上の「オペラ色」はもっとずっとくすんだピンク色となっています。

③ ブルーのテーマ (2022年/20.6cm×46.2cm)

単調な介護生活を送る中、創作意欲を湧かせるため、横長の特殊なサイズで制作を試みた作品。表参道ヒルズ「Galerie 412」で開催した90歳の記念展に出品され、これが最後の個展となりました。

“青は、
自然には絶対にはない色。
海の青は、
空の青が写るから青い。
空の青は、
手でつかむことはできない。
実在しないけれど、
心がひきつけられるところに
私は惹かれた。”